

先が見えない状況にあっても、役割を果たしていく

2021年度事業計画 社会福祉法人佐賀いのちの電話 (令和3年度)

1、 当法人を取り巻く環境

今、世界は新型コロナウイルス感染症との闘いの中で、社会生活が大きく変わろうとしています。このような状況において、私たちいのちの電話が果たしていく役割がますます重要になっています。それは、いのちを大事にするという、人としての原点に関り、地道な活動を続けていくことにあると思います。

新年度は、新型コロナウイルス感染症の先の見えない状況の中、いのちの電話の運営をしっかり維持し、相談員ひとり一人の健康・安全を守る活動が必要です。

新型コロナウイルス感染拡大により、いのちの電話各センターが受付中止や時間短縮を余儀なくされた中、佐賀センターは24時間1日も休むことなく、相談活動を続けました。昨年1年間の佐賀の受信件数は全国50センターの上から4番目となり、各方面から高い評価をいただいています。

これからも新型コロナ感染対策、環境整備を徹底しながらいのちの電話としての役割に全力で取り組んでいく所存です。

2、 重点活動への取り組み

(1) 新規相談員確保へ

- ・カウンセリング公開講座及び相談員養成講座の2講座（土曜班、水曜班）実施
- ・新聞各社、市町広報に加え、新たに県内ケーブルテレビ各社に募集告知を依頼
- ・募集チラシ設置場所の拡大を図ります。

(2) 相談支援体制の確立

- ・新規相談員サポーター6人が誕生します。現サポーターと連動して、サポート体制の拡充を図ります。
- ・相談員の心のケアのため、定期的に「相談員語ろう会」を設けます。

(3) 電話相談事業

- ・「深夜帯」の空きコマ解消へ相談員の協力を引き出します。
- ・ホームページの当番表閲覧の周知を徹底し、空きコマの解消を図っていきます。
- ・相談員の意見を聞きながら、当番に入りやすい仕組みや工夫を行います。
- ・毎月のフリーダイヤル、毎日フリーダイヤルの充足率向上を目指します。

(4) 広報活動の充実

- ・ 広報誌・ホームページの内容充実に努めます。
- ・ 街頭キャンペーンや出前講座、リーフレットなど広報媒体を通じて、自殺予防「いのちの電話」活動に対する市民の理解を求めます。

3、運営組織の確立

- ・ 役員・相談員合同総会の拡充を図ります。
- ・ 事務局業務の改善

4、財政基盤の充実強化

- ・ 財政の安定を図るために、法人・団体を組織化する（維持会員）。
- ・ 講演会、音楽会、バザー等のチャリティーイベントを企画・開催します。
- ・ 佐賀県のふるさと納税交付（NPO等）サイトの佐賀いのちの電話のPRに力を入れ、いのちの電話への寄付の大幅増を目指します。
- ・ 佐賀県からの委託金拡充を図ります。
- ・ 企業・団体の各種民間助成金の申請を行います。

5、新型コロナウイルス対策

- ・ 相談員に自己管理の徹底を求めます。
- ・ 当番者のマスク着用や手指消毒、検温の励行
- ・ 「三密」を避けるため、各委員会、班研修は外部施設を活用します。
- ・ 電話室の安全・安心のため、仕切りなどの対策を講じます。
- ・ リモート会議の環境を整備します。
- ・ リモート研修を検討します。